

スマホを用いて自宅でカンファレンス进行しよう！

○三谷尚平¹⁾ 稲次正敬¹⁾ 湊省¹⁾ 稲次圭¹⁾ 稲次美樹子¹⁾ 高田信二郎²⁾

1) 医療法人 凌雲会 稲次整形外科病院

2) 独立行政法人 国立病院機構 徳島病院

【はじめに】

職場においてスタッフが揃い、勉強会等、情報を共有する事は、各家族の事情や業務時間のラグ等の理由から難しい。「いつでも、どこでも」職場以外でも情報提供や共有ができないかを考え、今回携帯アプリケーションソフトウェア JANDI を使用し、実践・導入した結果について報告する。

【JANDI 概要】

ビジネス向けのコミュニケーションツールであり、①タイムライン型のグループチャット、②5GB のストレージ、ファイルの共有・絞り込み検索が可能、③マルチデバイス対応、④業界最高水準のセキュリティを保持し、PDF、動画、web アドレス等を自由に添付・閲覧でき、情報共有が可能である。

【方法】

当院病棟リハビリスタッフ 25 名に対し、事前にアプリケーションをダウンロード・使用方法・セキュリティ等、勉強会を通して取り組みを説明した。文献資料、勉強会・研修会、オススメ blog、雑談・freetalk 等トピックを設けた。1 ヶ月間使用してもらい、現段階の意見をアンケートにて調査した。

【結果】

参加した動機は、いつでも・どこでも見られる (54%)、他のスタッフの学習方法が知りたい (12%) が挙げられた。利用状況として閲覧のみ (64%) が最も多く、実際にアップした方は (28%) であった。利用した状況では、くつろいでいる時、休憩、待ち時間が最も多く、各自時間に余裕がある時に利用していることが分かった。利用時間帯は 18:00~24:00 と、業務終了後から就寝までの間が最も多かった。

【考察】

今回の取り組みにより、当初の目的であった「いつでも・どこでも」情報共有することについては達成でき、閲覧のみでも大半の方が確認してくれることがわかった。各自の都合・ペースで利用しており、今後も様々な環境下で利用できれば、円滑な情報共有ができるツールとして期待できる。改善点としては、アップ数が少なく、投稿しづらい環境があると予想され、環境改善・システムの使用法についての説明をしていく必要がある。

